

講義コード	1480320000
講義名称	労働法A <春>
科目英文名	Labor Law A
開講責任部署	法学部 法律学科
代表ナンバリングコード	0LAW3460
単位数	2.0
時間割	春学期: 水曜日 2 時限
講義開講時期	春学期

## 担当教員

氏名
楠本 敏之

授業形態	講義	実務経験のある教員による授業① 『実務経験のある教員による授業（元弁護士が、専門分野における実務経験で涵養された知見をも活用して講義する）』
------	----	---

アクティブラーニングの詳細	※受講人数により表記のとおり実施できない場合があります。 宿題(演習問題、e-learning等)
---------------	--

講義・演習概要	近年、テレビ・新聞などの報道で、しばしば「非正規雇用問題」「長時間労働」など多くの労働問題が議論され、その解決の必要性が叫ばれています。実際の日本の労働現場では、非正規雇、長時間労働をはじめとして、セクハラ、パワハラ、ワーク・ライフ・バランス、時間外労働規制、過労死・過労自殺など多くの解決すべき問題があります。本講義では、そのような問題に対処するための手段としての現在の労働法についてわかりやすく解説するとともに、現在においても未解決の様々な問題を解決するために何を改善すべきなのかを考えることができるようにします。
学習（到達）目標	労働法の全体像を体系的に示した上で、労働契約に関する諸規定や賃金に関する規制などについて解説します。労働法の基本知識をしっかりと習得していくことから始め、最終的には、何らかの労働問題に直面した時に、正しく判断し適切に処理することのできる法的能力を身に付けることができるようにすることが目標です。

## 講義・演習計画

回	内容
第1回	ガイダンス～講義の進め方・方針など
第2回	労働法の意義－労働法の発生とその歴史など
第3回	労働法における登場人物－労働者・使用者・労働組合など
第4回	労働法の法源－労働法のルールの所在～労働契約・労働契約・労働法規など
第5回	採用・採用内定・試用など
第6回	人事異動－配転・出向・転籍など
第7回	懲戒など
第8回	労働契約の終了①～解雇・整理解雇など
第9回	労働契約の終了②～解雇・整理解雇以外の終了事由
第10回	労働条件の変更など
第11回	非正規労働者の労働契約など
第12回	雇用平等・人権擁護①（男女平等を中心に様々な平等・人権問題）など
第13回	雇用平等・人権擁護②（その他の様々な平等・人権問題）など
第14回	賃金規制など
第15回	まとめと今後の労働法の課題について

## 成績評価の方法（割合）

「成績評価の方法（コメント）」についても合わせてご確認ください。

試験	
レポート	100%
その他	

成績評価の方法 (コメント)	備考 学年末の2回のレポート（各50%）のみで評価します。ただ、毎回の授業に関し定められた形式でM-Portを通じて課題を提出することを義務とし、その提出が11回以上の者のみが成績評価の対象となります。
-------------------	---

## テキスト

	著者	タイトル	教科書購入区分	ISBN	出版社	備考
1.	森戸英幸	ブレップ労働法（第7版）	大学オンライン販売	9784335313332	弘文堂	

参考文献	村中孝史・荒木尚志編『労働判例百選（第10版）』（有斐閣）
事前および事後学習の指示	労働法は、法律だけでなく、実際に生じた問題を取り扱った判例がとりわけ重要な法分野です。事前に指示されたテキストの該当部分や配布された判例などの資料については、読んだ上で講義に臨み、事後には、知識・理解の定着のために、講義の際に配布されたレジュメを再確認し、丁寧に復習するようにしてください。
学習時間	事前学習時間：30時間 事後学習時間：30時間
キーワード	労働者、使用者、労働時間、賃金、ワーク・ライフ・バランス

講義コード	1536240000
講義名称	社会学特講-格差社会を理論的に読み解く <春>
科目英文名	Topics in Social Studies-Theoretical Analysis of Contemporary Poverty in Japan
開講責任部署	社会学部 社会学科
代表ナンバリングコード	0SOC1430
単位数	2.0
時間割	春学期: 水曜日 2 時限
講義開講時期	春学期

## 担当教員

氏名
藤田 悟

授業形態	講義
------	----

アクティブラーニングの詳細	<p>※受講人数により表記のとおり実施できない場合があります。</p> <p>その他</p> <p>なし</p>
---------------	--

講義・演習概要	近年、日本社会において格差と貧困が急速に拡大しつつある。雇用・社会保障・教育・「自己責任」論などなど、格差社会をめぐる論点は多岐に渡っている。この講義では、格差社会の実態と格差社会化を推し進めている論理を学ぶとともに、格差社会に対抗する思想・論理を皆さんと探っていききたい。
学習（到達）目標	「格差」とは何だろうか。「貧困」とは何だろうか。こうした基本的（根本的）な問いに正面から向き合い、答えられるようになってほしい。また、「格差社会」の構造と問題点について、その歴史的な背景も含めて「理論的に読み解く」視点を獲得してほしいと思う。

## 講義・演習計画

回	内容
第1回	ガイダンス イントロダクションー高等教育の費用と権利
第2回	イントロダクションー高等教育の費用と権利Ⅱ
第3回	格差とは何だろうかⅠー格差は「問題」なのか
第4回	格差とは何だろうかⅡー格差はなぜ「問題」なのか
第5回	貧困とは何だろうかⅠー貧困の「発見」
第6回	貧困とは何だろうかⅡー貧困の「境界」
第7回	生活保護の歴史と課題Ⅰー歴史と制度解説
第8回	生活保護の歴史と課題Ⅱー現状と課題
第9回	現代日本における貧困Ⅰーワーキングプアの増加とその要因
第10回	現代日本における貧困Ⅱーワーキングプアを生む構造
第11回	格差社会のイデオロギーⅠー機会の平等と結果の平等
第12回	格差社会のイデオロギーⅡー「自立」と「依存」
第13回	格差社会を克服する思想Ⅰー<自立-依存>再考
第14回	格差社会を克服する思想Ⅱー<機会の平等>再考
第15回	まとめー格差社会の今後

## 成績評価の方法（割合）

「成績評価の方法（コメント）」についても合わせてご確認ください。

試験	
レポート	
その他	100%

成績評価の方法（コメント）	授業期間中に複数回小レポートを課し、その合計点で評価する。
---------------	-------------------------------

参考文献	阿部彩『弱者の居場所がない社会—貧困・格差と社会的包摂』講談社現代新書、2011年。岩田正美『現代の貧困—ワーキングプア／ホームレス／生活保護』ちくま新書、2007年。後藤道夫『格差社会とたたかう—〈努力・チャンス・自立〉論批判』青木書店、2007年。湯浅誠『反貧困—「すべり台社会」からの脱出』岩波新書、2008年。その他の文献は講義中に適宜紹介する。
事前および事後学習の指示	参考文献のいずれか一冊以上、事前に読んでおくこと。また講義では資料として新聞記事を多数使用するので、普段から新聞を読む習慣を身に付けておくことが望ましい。
学習時間	事前学習時間：30時間 事後学習時間：30時間

講義コード	1560220000
講義名称	国際政治史A <春>
科目英文名	History of International Politics A
開講責任部署	法学部 法律学科
代表ナンバリングコード	POLS2420
単位数	2.0
時間割	春学期: 水曜日 2 時限
講義開講時期	春学期

## 担当教員

氏名
塚田 鉄也

授業形態	講義	アクティブラーニング
------	----	------------

アクティブラーニングの詳細	※受講人数により表記のとおり実施できない場合があります。 小レポート/小テスト	宿題(演習問題、e-learning等)
---------------	--	----------------------

講義・演習概要	国際政治は、国内政治とは少し異なった、独特の仕組みを有しています。本講義では、16世紀から第一次世界大戦までの近代国際政治史上の主要な出来事を学びながら、国際政治の仕組みがどのように形成されてきたかを考察します。
学習（到達）目標	①近代国際政治史上の主要な出来事について理解し、説明できる ②国際政治の仕組みがどのように形成されてきたかを理解し、説明できる

## 講義・演習計画

回	内容
第1回	近代国際政治史を学ぶ意義
第2回	国際政治の基本構造
第3回	16世紀のヨーロッパ
第4回	三十年戦争とウェストファリア体制
第5回	勢力均衡の時代①：同盟の論理
第6回	勢力均衡の時代②：小国の運命
第7回	革命の時代
第8回	ウィーン体制の形成と展開
第9回	パクス・ブリタニカ
第10回	新たな勢力の登場①：ドイツ
第11回	新たな勢力の登場②：アメリカ
第12回	帝国主義の時代①：帝国主義の諸相
第13回	帝国主義の時代②：大国間関係
第14回	第一次世界大戦
第15回	まとめ

## 成績評価の方法（割合）

「成績評価の方法（コメント）」についても合わせてご確認ください。

試験	100%
レポート	0%

その他	0%
-----	----

成績評価の方法（コメント）	2週に1度、計7回実施する確認テスト（WebClassの「テスト」を利用）の平均点により評価する。なお、盗用等の不正行為が確認された場合は、その段階で不合格とする。
---------------	--

## テキスト

	著者	タイトル	教科書購入区分	ISBN	出版社	備考
1.	小川浩之・板橋拓己・青野利彦	国際政治史—主権国家体系のあゆみ（新版）	学生独自購入	9784641151260	有斐閣	

参考文献	岩間陽子・君塚直隆・細谷雄一（編）『ハンドブック ヨーロッパ外交史—ウェストファリアからブレグジットまで』（ミネルヴァ書房、2022年）
事前および事後学習の指示	テキストの指示された部分を事前に読んでおいてください。
学習時間	事前学習時間：30時間 事後学習時間：30時間

講義コード	1770030000
講義名称	アジア文化史B <春>
科目英文名	Cultural History of Asia B
開講責任部署	国際教養学部 英語・国際文化学科
代表ナンバリングコード	CULT2500
単位数	2.0
時間割	春学期: 水曜日 2 時限
講義開講時期	春学期

## 担当教員

氏名
辻 高広

授業形態	講義	アクティブラーニング
------	----	------------

アクティブラーニングの詳細	※受講人数により表記のとおり実施できない場合があります。		
	コメントシート	小レポート/小テスト	ディスカッション(話し合い)

講義・演習概要	<p>本講義では中国を中心とした東アジア諸国にかかわる様々な文化的事象をとりあげ、その歴史的背景について学びながら、東アジア世界における歴史的なつながりについて理解する。</p> <p>なお、本講義では中国の歴史について、高校世界史レベルの知識を有することを前提とする。高校時代の教科書を残している者はそれに目を通してのこと。</p> <p>なお、この授業ではM-Portや各種情報検索ツールを積極的に使用し、レジュメなどはM-Portを通じてpdfで配布する予定であり、受講時にはPCやタブレット端末などの持参を推奨する。</p>
学習(到達)目標	現代をとりまく様々な文化的事象が長期にわたる歴史的背景をもって形成され、東アジア世界に伝播していったことを理解することができる。

## 講義・演習計画

回	内容
第1回	ガイダンス
第2回	中国史概説1ー古代～中世
第3回	中国史概説2ー近世～近現代
第4回	日中交流の歴史1ー日中交流のはじまり
第5回	日中交流の歴史2ー遣隋使
第6回	日中交流の歴史3ー遣唐使
第7回	日中交流の歴史4ー倭寇
第8回	日中交流の歴史5ー居留地と雑居地
第9回	神になった人々1ー歴史のなかの関羽
第10回	神になった人々2ー世界に広がる関帝廟
第11回	神になった人々3ー歴史のなかの楊貴妃
第12回	神になった人々4ー楊貴妃渡来伝説
第13回	食の歴史1ー主食の歴史
第14回	食の歴史2ー食卓の歴史
第15回	まとめー東アジア世界のつながり

## 成績評価の方法(割合)

「成績評価の方法（コメント）」についても合わせてご確認ください。

試験	40%
レポート	40%
その他	20%

成績評価の方法（コメント）	期末には論述を中心とした試験を、学期中に複数回のレポートを課す。出席は回数ではなく、授業への参加や理解度に応じて加点するものである。
---------------	--

参考文献	尾形勇・岸本美緒編『新版世界各国史3 中国史』山川出版社、1998年 講談社『中国の歴史』シリーズ（全12巻）、2004年～2005年
事前および事後学習の指示	授業前には指示する時代について、高校教科書および参考文献に目を通し、その時代背景について基礎的な知識を身につけておくこと。授業後には講義内容について確認し、理解不足の点があれば質問すること。
学習時間	事前学習時間：30時間 事後学習時間：30時間

講義コード	1781330000
講義名称	言語学概論A <春>
科目英文名	Introduction to Linguistics A
開講責任部署	国際教養学部 英語・国際文化学科
代表ナンバリングコード	LING2420
単位数	2.0
時間割	春学期: 水曜日 2 時限
講義開講時期	春学期

## 担当教員

氏名
角出 凱紀

授業形態	講義	アクティブラーニング
------	----	------------

アクティブラーニングの詳細	※受講人数により表記のとおり実施できない場合があります。 小レポート/小テスト	宿題(演習問題、e-learning等)
---------------	--	----------------------

講義・演習概要	言語学は、我々人間が普段何気なく使っている言語に潜む規則性や特徴を探究する学問です。この講義は、日本語や英語の具体事例を通して、言語の音や文法にまつわる言語学の主要概念を身につけることを目指しています。また、日本語教育能力検定試験の問題を実際に手を動かして解いてみることで、知識の定着を図ります。
学習(到達)目標	1. 言語学における主要概念を正しく身につける。 2. 実際に自分で言語現象を分析できるようになる。 3. 言語に潜む何気ない不思議に気づく感性を育む。

## 講義・演習計画

回	内容
第1回	授業概要と導入
第2回	言語の特性とその起源
第3回	音声学・音韻論(1): 母音の分類
第4回	音声学・音韻論(2): 子音の分類
第5回	音声学・音韻論(3): 音素と異音
第6回	音声学・音韻論(4): モーラと音節
第7回	音声学・音韻論(5): アクセントとイントネーション
第8回	小テストと解説
第9回	形態論(1): 語と形態素
第10回	形態論(2): 派生・複合・屈折
第11回	形態論(3): いろいろな語形成
第12回	文法論(1): 品詞
第13回	文法論(2): ヴォイス
第14回	文法論(3): モダリティ
第15回	小テストと解説

## 成績評価の方法(割合)

「成績評価の方法(コメント)」についても合わせてご確認ください。

試験	60%
レポート	
その他	40%

成績評価の方法（コメント）	成績評価は、2回の小テスト（各30%）と課題（40%）で行います。
---------------	-----------------------------------

参考文献	<p>風間喜代三・上野善道・松村一登・町田健. 1993. 『言語学』 第2版. 東京: 東京大学出版.</p> <p>黒田龍之介. 2004. 『はじめての言語学』 東京: 講談社.</p> <p>斎藤純男. 2010. 『言語学入門』 東京: 三省堂.</p> <p>佐久間淳一・加藤重広・町田健. 2004. 『言語学入門』 東京: 研究社.</p> <p>姫野伴子・小野和子・柳沢絵美. 2015. 『日本語教育学入門』 東京: 研究社.</p> <p>※授業内でも適宜紹介します。</p>
事前および事後学習の指示	<p>各回の授業後には必ず復習すること。授業内容の十分な理解には、各自の努力が不可欠です。特に、授業で学んだ概念や方法を用いてことばのデータを自分自身で分析できるかどうか、必ず確認してください。復習によって毎回の授業内容の理解を確かなものにしておくことが、次回の授業の事前学習となります。また、授業で取り上げた現象が日常の言語使用の中でどのように表れているか、日ごろから観察するようにしてください。</p>
学習時間	<p>事前学習時間：30時間 事後学習時間：30時間</p>

講義コード	14D2410000
講義名称	統計学総論Ⅰ <春>
科目英文名	Social Statistics Ⅰ
開講責任部署	経済学部 経済学科
代表ナンバリングコード	ECON1550
単位数	2.0
時間割	春学期: 水曜日 2 時限
講義開講時期	春学期

## 担当教員

氏名
吉田 茂一

授業形態	講義	実務経験のある教員による授業① シンクタンク[アジア太平洋研究所]勤務における調査分析の実務経験も反映させた講義内容
------	----	---

アクティブラーニングの詳細	※受講人数により表記のとおり実施できない場合があります。 宿題(演習問題、e-learning等)
---------------	--

講義・演習概要	記述統計(=統計データの整理と記述の方法)について概説し、推測統計(=確率の考えをもとに、標本から母集団の特性を推論する方法)の基礎的な考え方について、講義を進めていく。講義の中ではExcelを用いた基本的な統計分析の方法も解説する。 「統計学総論Ⅰ」と「統計学総論Ⅱ」では、大きな流れはどちらも共通しており、Ⅰで十分に扱えないトピックスをⅡで扱う。
学習(到達)目標	記述統計の知識と推測統計の考え方、これらについての理解を深めることを目標とする。このためには、各自の自習時間にパソコンも活用して教科書の例題などの課題にも挑戦していただく予定だが、決して難しい作業ではない。「統計(学)的な物の考え方」は、今後社会に出てからもあらゆる場面できっと役に立つものである。

## 講義・演習計画

回	内容
第1回	ガイダンス (各回の順序は理解度に応じて入れ替えることがある)
第2回	記述統計と推測統計
第3回	代表値(平均値、中央値、最頻値)
第4回	ちらばりの指標(分散、標準偏差)
第5回	偏差値
第6回	度数分布とヒストグラム
第7回	確率
第8回	正規分布
第9回	母集団と標本
第10回	推定と検定
第11回	平均の区間推定
第12回	比率の区間推定
第13回	平均に関する検定
第14回	相関係数
第15回	試験およびまとめ

## 成績評価の方法（割合）

「成績評価の方法（コメント）」についても合わせてご確認ください。

試験	0%
レポート	100%
その他	0%

成績評価の方法（コメント）	①授業内で2.3回程度、Excelを用いて実際に計算を行えるかを確認するレポートを課す。 ②Excelによるレポート課題を2回課す。
---------------	---

## テキスト

	著者	タイトル	教科書購入区分	ISBN	出版社	備考
1.	金子治平・上藤一郎 編	よくわかる統計学－I 基礎編－(第2版)	学生独自購入	978-4-623-06111-2	ミネルヴァ書房	(¥2600+税)

参考文献	郡山彬+和泉澤正隆=著『統計・確率のしくみ(入門ビジュアルサイエンス)』日本実業出版社(税込¥1365) ISBN:978-4534026620
事前および事後学習の指示	教科書の練習問題等での予習・復習を中心に、空き時間等を利用して積極的に課題に取り組むことが求められる。
学習時間	事前学習時間：30時間 事後学習時間：30時間

講義コード	16D0340000
講義名称	消費者行動論 <春>
科目英文名	Consumer Behavior
開講責任部署	経営学部 経営学科
代表ナンバリングコード	CMER3400
単位数	2.0
時間割	春学期: 水曜日 2 時限
講義開講時期	春学期

## 担当教員

氏名
辻本 法子

講義	アクティブラーニング	グループワーク
授業形態	実務経験のある教員による授業①	
	百貨店のマーケティング部門で勤務経験のある教員が、具体的な事例を交えた授業をおこなう。	

アクティブラーニングの詳細	※受講人数により表記のとおり実施できない場合があります。		
	小レポート/小テスト	宿題(演習問題、e-learning等)	ディスカッション(話し合い)
	協同・協調学習(グループ・ワーク、チームワーク、ペアワーク)		

講義・演習概要	【マーケティングはビジネスパーソンのマストスキルです！消費者心理の視点から次世代のマーケティングを考える】 現代において企業がマーケティング戦略を構築するためには、ITの進展などの社会環境の変化がもたらす消費者の行動を的確に把握することが不可欠となっています。本講義では、消費者に向けたマーケティング・コミュニケーション戦略を提案するために必要な消費者行動についての理論や、調査手法、コミュニケーション手法について具体的な事例を交えて学習し、新たな時代のマーケティングについて議論します。本講義は、みなさんが就職した際に、自分の職務において消費者を対象としたマーケティング・コミュニケーションを企画することができる基礎的なスキルを身につけることを目指します。
学習(到達)目標	本講義の目標は、新たな時代のマーケティングについて自ら考える力を養成することです。 ①消費者行動についての基本的な理論と分析手法を理解すること ②マーケティングにおける消費者とのコミュニケーション施策について理解すること ③新たな時代の企業のマーケティング戦略について消費者行動の視点から説明できること

## 講義・演習計画

回	内容
第1回	オリエンテーション 講義の進め方、予習方法、成績評価の方法、受講の際のルールについての説明をおこなう
第2回	消費者の意思決定プロセス
第3回	消費者行動モデル
第4回	消費者の情報処理
第5回	消費者の関与
第6回	消費者行動分析
第7回	消費者の選択肢評価
第8回	消費者の購買後評価と満足度
第9回	消費者視点のマーケティング・コミュニケーション1 価格プロモーション
第10回	消費者視点のマーケティング・コミュニケーション2 非価格プロモーション
第11回	消費者のブランド認知

第12回	消費者の個人特性
第13回	消費者間の相互作用
第14回	文化と消費者行動
第15回	まとめ 授業ノート、課題、ミニレポートの確認と提出 講義の内容全体を振り返り、まとめをおこなう

## 成績評価の方法（割合）

「成績評価の方法（コメント）」についても合わせてご確認ください。

試験	0%
レポート	30%
その他	70%

成績評価の方法（コメント）	<p>①毎回の授業における授業ノートを完成していること。</p> <p>②授業の理解度を確保するための課題を授業ごとに実施する。授業内容を踏まえて自身の考えを論理的に述べているかどうか重点を置いて評価する。</p> <p>③授業期間中に授業の到達目標に対応するテーマに関するレポートを3回実施する。</p> <p>成績は、授業ノート・課題14回分と、ミニレポート3回で評価します。</p>
---------------	--

## テキスト

	著者	タイトル	教科書購入区分	ISBN	出版社	備考
1.	中田善啓・西村順二	先を読むマーケティング ：新しいビジネスモデル の構築に向けて	大学オンライン 販売	978-4-495-64801-5	同文館出版	

参考文献	講義のなかで紹介します。
事前および事後学習の指示	<p>次回の講義に対応する教科書の章、または事前の配布資料を読んでおくこと。</p> <p>事前に授業ノートをダウンロードし、プリントアウトして持参すること（授業には必ず筆記用具を持参すること）。</p> <p>消費者の購買行動やライフスタイルに関する新聞、雑誌、ネットの記事について関心をもつこと。</p>
学習時間	事前学習時間：30時間 事後学習時間：30時間

講義コード	1C02380000
講義名称	歴史学 [2] -第二次世界大戦の終結と東アジア <春>
科目英文名	History-The End of World War II and East Asia
開講責任部署	共通教育機構
代表ナンバリングコード	HIST1000
単位数	2.0
時間割	春学期: 水曜日 2 時限
講義開講時期	春学期

## 担当教員

氏名
島田 克彦

授業形態	講義
------	----

アクティブラーニングの詳細	※受講人数により表記のとおり実施できない場合があります。 コメントシート
---------------	---

講義・演習概要	この授業では、第二次世界大戦を終結させたサンフランシスコ講和条約について、戦争責任・戦後責任、植民地支配、人権という観点から学びます。1940年代から50年代の日本の政府と社会は、戦争や植民地支配をどのように問題とし、何を切り捨てたのでしょうか。そしてこれらの問題は、現代に至る歴史をどのように形作ってきたのでしょうか。この授業を、世界の市民として羽ばたくみなさんが、歴史認識をみずから養い、深める力を鍛える機会としてほしいと思います。
学習（到達）目標	第二次世界大戦の終結と戦後東アジア世界の形成について、説明できるようになること。 21世紀を生きる「世界の市民」として、歴史認識をみずから養う力を獲得すること。

## 講義・演習計画

回	内容
第1回	イントロダクション 授業の進め方について説明します。
第2回	第二次世界大戦の終結
第3回	日本国憲法の制定 ー戦後日本社会の形成ー
第4回	旧体制の解体と持続 ー戦争責任と植民地支配責任ー
第5回	東アジアの激動と講和への動き
第6回	サンフランシスコ講和会議
第7回	中間まとめ
第8回	サンフランシスコ講和条約の構造
第9回	サンフランシスコ講和条約の問題点
第10回	中間まとめ（講和条約の問題を中心に）
第11回	サンフランシスコ講和条約第三条と沖縄
第12回	サンフランシスコ講和条約第三条とアメリカ
第13回	戦後体制の形成 ー憲法・安保体制または1952年体制ー
第14回	予備日
第15回	全体のまとめ

## 成績評価の方法（割合）

「成績評価の方法（コメント）」についても合わせてご確認ください。

試験	0%
レポート	55%
その他	45%

成績評価の方法（コメント）	【授業への出席】と【授業ごとの課題】をセットで評価し、「その他」に配点します。 レポート課題を2回出す予定です。そのうち1回でも提出していないと単位を認定しません。
---------------	---

参考文献	内海愛子『朝鮮人B C級戦犯の記録』勁草書房、1982年（岩波現代文庫、2015年） 林博史『B C級戦犯裁判』岩波書店（岩波新書952）2005年 内海愛子『戦後補償から考える日本とアジア』山川出版社（日本史リブレット68、2版）2010年 林博史『米軍基地の歴史 世界ネットワークの形成と展開』吉川弘文館（歴史文化ライブラリー336）、2012年 内海愛子・大沼保昭・田中宏・加藤陽子『戦後責任—アジアのまなざしに依て』岩波書店、2014年 古関彰一・豊下橋彦『沖縄 憲法なき戦後 講和条約三条と日本の安全保障』みすず書房、2018年 豊下橋彦他『沖縄を世界軍縮の拠点に 辺野古を止める構想力』岩波書店（岩波ブックレット1022）、2020年
事前および事後学習の指示	授業の資料を使って復習をしてください。
学習時間	事前学習時間：30時間 事後学習時間：30時間
キーワード	第二次世界大戦 サンフランシスコ講和会議 サンフランシスコ講和条約 植民地支配 沖縄

講義コード	1P41135001
講義名称	心理学<春>
科目英文名	Psychology
開講責任部署	
代表ナンバリングコード	000GE115
単位数	2.0
時間割	春学期: 水曜日 2 時限
講義開講時期	春学期

## 担当教員

氏名
永井 明子

講義	アクティブラーニング	グループワーク
授業形態	実務経験のある教員による授業① 幼稚園やこども園での教員・保育士へのコンサルテーション（特に発達障害）経験のある者が発達支援、保護者支援について講義する。	

アクティブラーニングの詳細	※受講人数により表記のとおり実施できない場合があります。		
	コメントシート	小レポート/小テスト	宿題(演習問題、e-learning等)
	ディスカッション(話し合い)	協同・協調学習(グループ・ワーク、チームワーク、ペアワーク)	

到達目標	「出会い」と「かかわり」を通して、「これから」の大学生活や社会生活を有意義に生きるために必要な心構えや心理学の知識を身につけることで、 ①自分を振り返ることができるようになる。 ②学んだ知識や心構えを他者とのコミュニケーションに活用することができるようになる。
授業概要	目に見えない「心」の仕組みを解き明かそうと、心理学という学問ではこれまでに様々な研究が行われてきた。この講義ではそのような研究を参考にして、自分自身の見えない「心」を見つめてみる。自己と向き合い、人とかかわり、社会との出会いを考えることで自分を再発見し、自分の未来を自分の力で切り開いていく。
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. オリエンテーションとグループ作り</li> <li>2. パーソナリティをみる</li> <li>3. 心のなりたち</li> <li>4. 無意識のはたらき</li> <li>5. 自己をみつめる</li> <li>6. 自己をつかむ</li> <li>7. 私の子ども時代</li> <li>8. 対人関係をふりかえる</li> <li>9. 対人態度を知る</li> <li>10. 人とのかかわり方</li> <li>11. 私の友人関係</li> <li>12. 社会とのかかわりと帰属意識</li> <li>13. 想像力と創造力</li> <li>14. 職業選択</li> <li>15. 自分の将来イメージ</li> </ol>
教科書	川瀬正裕・松本真理子・丹治光浩著『これからの生きる心理学「出会い」と「かかわり」のワークブック』ナカニシヤ出版、2008年
参考書	授業中に適宜紹介する。
評価方法	授業の取り組み姿勢を重視する。毎回の課題への取り組みや授業への積極的な参加がない場合はその回の得点は0点とする。 授業外学習として、予習課題43%、復習課題57%（授業への参加度10%を含む）
既修条件	なし

講義コード	1P68010001
講義名称	現代メディアとジャーナリズム<春>
科目英文名	Contemporary Media and Journalism
開講責任部署	
代表ナンバリングコード	000GE103
単位数	2.0
時間割	春学期: 水曜日 2 時限
講義開講時期	春学期

## 担当教員

氏名
宮坂 政宏

講義	アクティブラーニング	プレゼンテーション
授業形態	グループワーク	実務経験のある教員による授業① <small>新聞記者、週刊雑誌記者・編集、出版社の経験がある者が、その経験を活かして、今日のメディア、ジャーナリズムについて具体的に解説する。</small>

アクティブラーニングの詳細	※受講人数により表記のとおり実施できない場合があります。		
	コメントシート	小レポート/小テスト	ディスカッション(話し合い)
	プレゼンテーション(発表)	協同・協調学習(グループ・ワーク、チームワーク、ペアワーク)	課題解決

到達目標	"今日のジャーナリズムとは何か、様々なメディア・マスコミの現状、課題を通して学ぶ。 同時にジャーナリズムの担い手であるジャーナリストが備えている諸手法への理解と初歩的な技能の修得を通じ、教員にも求められる高度で複雑な情報化社会で情報の主体的な受け手（情報の価値理解）、良識ある批判者（客観的分析者）、活用者（表現・発信を通し社会＝我々の世界の課題解決を図る）となる実践的素養の基礎を身に着ける。（主としてディプロマポリシー1～3、カリキュラムポリシー2に対応）"
授業概要	"授業全般を通し、時事課題、ジャーナリズムとは何か、具体的に紹介するとともに、ジャーナリズムの技法を用いて教員として必要な課題設定・情報収集・整理分析・まとめ表現という「見方・考え方（指導要領）」「探究」に役立つ実践的な授業を展開する。 特に、情報の価値、今起こりつつある事象について課題発見力、課題分析力、発信力、課題解決力を重視する。具体的には、自ら設定した課題を解決するための取材方法、取材で得た情報の編集、記述・表現、マスメディアに乗せた発信など一連のプロセスを学ぶことで、情報源（事象）にアクセス（情報選択力）し、課題を発見する力、情報・事象の分析力、情報編集力、表現力・発信力の基礎をつけるとともに、情報発信による社会（我々の世界）への訴求力、課題を主体的に解決する力の基礎を習得する。"
授業計画	"第1回 時事課題の解説（毎回行う）。授業概要、ジャーナリズムとは？講義の目的、方法、評価の仕方について説明する。簡単なクイズでジャーナリストの資質について理解する。 第2回 各回の講義についてプレビューする。全体像をあらかじめ知ることによって授業への認知度を高める。 第3回 ジャーナリズムって何？。マスメディアや記者・編集者など発信する側の両面から理解を図る。 第4回 ジャーナリズムの担い手、ジャーナリスト像1 いろいろなフィールドで活躍するジャーナリストの実例を通してどんな思い・考え方・姿勢で、仕事に取り組んでいるのか、その実像を理解する。 第5回 ジャーナリズムのフィールド、メディア論1 ジャーナリズムはメディアを通して展開される。メディアの歴史や社会に与える影響・効果、さらに近年メディアの中心となりつつあるSNSについて理解を深める。 第6回 ジャーナリズムのフィールド、メディア論2 フォトジャーナリズムのアワードであるピューリッツァー賞受賞作を通してジャーナリストの視点について理解を深める。 第7回 これまでの復習を兼ね、視聴者に分かりやすく伝える方法について、実際にプレゼンすることで学ぶ。 第8回 ジャーナリズム・マスメディアの社会的な意義、法的な位置づけ。 第9回 ジャーナリズムのフィールド、メディア論3 受け手（視聴者）から見た各メディア 第10回 SNSを中心としたメディアの危険性について学ぶ。SNSの信頼性、いじめ・誹謗中傷など人権侵害、詐欺等の犯罪、我々も巻き込まれる危険性。加えて、情報格差の課題、などについて学ぶ。 第11回 誤報、捏造、フェイクニュース、センセーションナリズム・イエロージャーナリズム、商業ジャーナリズム、ブラックジャーナリズムなど、ジャーナリズムが持つ問題点について学ぶ。 第12回 【実践編】ジャーナリズムの基本：ものを見る目「心の目」。「目に見えざるもの」（見えても気づかない）に対しても目を向ける「心の目」、など、ジャーナリスト的なものとのらえ方を体験する。 第13回 【実践編】演習：実際のニュースの作成。価値ある文書（プレゼン資料）の作り方 取材の基本、インタビュー、コメントとり。 第14回 TV局や新聞社のニュースができるまで。プロの工程を学ぶ。 第15回 授業の振り返り、本授業の役立て方などについて解説"

<b>教科書</b>	教科書は指定しない。必要な教材資料は各回配布する。
<b>参考書</b>	必要に応じて授業中に紹介する。
<b>評価方法</b>	授業での討議等の場面での参加度・発言の適格性（30%）、授業内容に関する知識理解（確認用コメントシート、小レポート40%）、ジャーナリズム的手法を用いた初歩的視点・技能の修得（発信・発表30%）、各観点について5段階評定する。
<b>既修条件</b>	なし